



いいこつつかい

「みんなの学校」をつくりましょう！

教育長のつぶやき

No. 118

2025. 11/14

～木村泰子先生のご講演～

昨日、大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子先生のご講演が人権教育週間に合わせ栄中学校で行われました。第一部は子どもと保護者を交えて、第二部は保護者や地域の方と近隣他校の教職員が参加する会となりました。地域の一般の方の姿や同じトコトンの実践に励む中野小や、延徳小の先生方にもお越しいただき、大変充実した会になりました。

全ての授業も短時間参観いただきましたが、気さくにどんどん子どもたちに声をかけていく姿に親しみを感じながらも、学校や子どもたちの雰囲気を的確につかんでいらっしゃる様子は流石！としか言いようがありませんでした。「授業がすごくいい感じで、柔らかい感じがした」という先生の感想も嬉しいものでした。

10月23日に塩尻の県総合教育センターでTOCO-TONの主事による各地域の発表が行われましたが、その時に栄村のブースにほとんどどまり、Y主事の話をじっくり聞いていた時の思いなどもお聞きすることができました。やはりあれだけ講演会で毎日のように全国を飛び回っている先生でさえも、当村の取り組みにかなり興味を抱き、発表に聞き入ってしまったということで、今後の励みになるお言葉も頂戴できました。

さて、講演会（子どもを含めた部）では、自分らしさを発揮することや一人でも不幸せな子が出ないようにすること、自分の言葉で語ることを意識するなど、他者との違いを学びに行く場所が学校であるというお話を聞きすると共に、子どもと大人に「見えない4つの力」について自分がどれに当てはまるか考える時間もいただきました。

1：人を大切にする力、2：自分の考えを持つ力、3：自分を表現する力、4：チャレンジする力…とし、この中で自分が一番持っている力を一つと、足りない力一つを選んで立ってもらうなどの活動も取り入れていただきました。子どもたちは「チャレンジする力」を持っていると回答した子が一番多く、足りない力は「自分を表現する力」だと感じていることもわかりました。表現力不足には納得できました。

「自分のことは自分で決める」「人のせいにしない」「自分がつくる自分たちの学校『みんなの学校』を！」とエールもいただき来年度の向け元気もたくさん頂けました。

第2部の大人への講演会は失敗を恐れず、同調圧力に屈しない姿を子どもたちにも見せてほしいというお話から始まり、人と比較しないこと、「障がい」という言葉でくくらない、全ての子どもが安心して無理せず学べる学校にしてほしいというお話を聞いていただきました。最後は学校は「ある」ものではなく「つくる」ものであることとし、保護者や地域の大人全ての人が当事者として関わり、学校をつくってほしいという話もされました。

地域住民は「土」、教職員は「風」という言葉もいただき、当村で「みんなで学校を創ろう！」の取り組みも、これから学校を「風」頼みにするのではなく「土」の人たちの関わりが重要であると折に触れ、伝えてただけに、同じ思いであることに感激するとともに、すっきりした感じも受けました。

学校が閉ざされた世界ではなく、地域住民に開かれ一緒に子どもを育てていけるパートナーの関係が強く結ばれるように、開校後まだまだ取り組まなければならない課題をたくさん頂けました。

もっとゆっくりお話しできれば良かったのですが、お忙しい先生ですので大阪一栄村の日帰りをしていただき大変申し訳なく思うと共に感謝の気持ちでいっぱいです。また、機会をつくりその後の様子をご覧いただきながらゆっくりお話をしたいものです。

